

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年														
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 ~3日	4月 ~10日	4月 ~17日	4月 ~24日	5月 ~1日	5月 ~8日	5月 ~15日	5月 ~22日	5月 ~29日	6月 ~5日	6月 ~12日	6月 ~19日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	17	19	18	15	6	10	23	10	15	14	10	35
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	9	23	16	14	20	7	20	14	27	24	19	
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	1	2	1	1	3	0	0	1	1	2	1	
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	1	8	7	4	4	5	6	6	11	4	6	
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	5	2	3	9	7	6	5	6	4	3	2	
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第24週(6月13日~6月19日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	20	結核	20	4	1	2	1	10	1	1
三類	0	発生なし	0							
四類	4	E型肝炎	1					1		
		日本紅斑熱	2			1			1	
		レジオネラ症	1				1			
五類	15	アメーバ赤痢	1			1				
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2		1		1			
		クロイツフェルト・ヤコブ病	1					1		
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	1				1		
		梅毒	9					8	1	
新型インフルエンザ 等感染症	2,402	新型コロナウイルス感染症	2,402	288	201	103	5	1,258	282	265

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第24週に1,258件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向ですが、依然として高い水準です。感染の再拡大を防止するため、基本的な感染対策に加え、体調不良時の外出自粛、検査の積極的受検など一人一人が対策を徹底することが大切です。

2 感染性胃腸炎

定点当たり5.96人の報告がありました。前週と比べてやや減少しましたが、多い状況が続いています。手洗いの励行、便・吐物の適切な処理など感染予防対策を心がけましょう。

3 手足口病

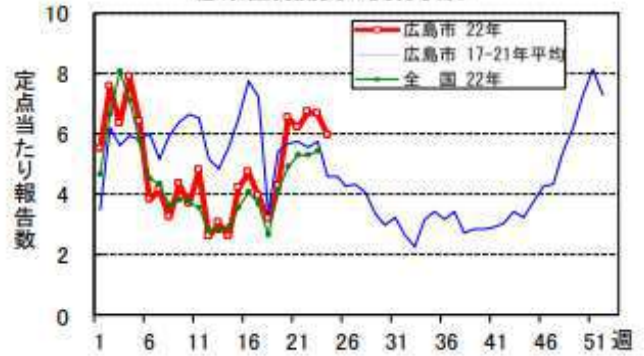
定点当たり1.50人の報告があり、前週と比べて大きく増加しました。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

4 梅毒

今年の累計は139件となり、非常に多い状況が続いています。梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあるため、早期発見・早期治療が大切です。

【参考】保健センターの無料・匿名の梅毒検査 <https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>

感染性胃腸炎の流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
小児科	インフルエンザ	-	-	0.01		
小児科	咽頭結膜熱	10	0.42	0.74		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	2.01		
	感染性胃腸炎	143	5.96	4.62		
	水痘	3	0.13	0.41		
	手足口病	36	1.50	2.58		↑
	伝染性紅斑	1	0.04	0.09		
	突発性発しん	8	0.33	0.40		
ヘルパンギーナ	5	0.21	0.65			
小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.07		
眼科	RSウイルス感染症	17	0.71	0.65		↑
	急性出血性結膜炎	-	-	-		
基幹	流行性角結膜炎	5	0.63	0.63		
	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	無菌性髄膜炎	-	-	-		
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-			

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	10	53	30歳代・1人、40歳代・1人、50歳代・1人、70歳代・3人、80歳代・4人
4	E型肝炎	1	1	40歳代
5	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2	70歳代
5	梅毒	8	139	20歳代・1人、30歳代・2人、40歳代・3人、50歳代・2人
5	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1	5	70歳代